

昔はどんな道具・どんなやり方で 山仕事をしていたの？

昔から使われてきた林業の道具の一部や、
伝統技術を少しだけご紹介します！

道具

鉦(チョウナ)

木を削るための道具。製材には長い柄がついたものを使う。(写真は「手チョウナ」で、臼を掘る際などに使用。)



斧(ヨキ)

手斧のこと。チェーンソーが登場するまではヨキで木を伐っていました。ヨキより刃先の幅が広いものが「マサカリ」。



鉈(ナタ)

枝打ち、低木の切り払いなどで使われる道具。重さと刃の厚みを利用して、薪や竹を割ることもできる。



楔(ヤ)

木が倒れる反対側に入れた切り込み(追い口)に打ち込むクサビ。



鳶口 (トビグチ、トビクチ)

丸太に鉤(かぎ)をひっかけて移動・運搬・積み上げ等をするための道具。



トチ

丸太に打ち込み、環の部分に縄をかけて木材を運搬するために使用する金具。



大鋸(オガ)

前挽き大鋸(まえびきおが)、木挽鋸(こびきのこ)とも。人力で製板するための大型で幅広のノコギリ。



二人挽き鋸(フタリビキノコ)

丸太を一定の長さに切る(玉切り)ための二人用のノコギリ。



ガンタ

敷出し(倒した丸太を移動すること)で、丸太を押したり、テコの原理を利用して回転させるために使う道具。



「木出し」の方法

鉄砲堰(テッポウゼキ)

丸太を組んで作った一種のダムで、水を貯めた後、堰を切って伐採した木材を水と一緒に一気に下流へと押し流す装置。鉄砲堰によって木材を流すことは鉄砲流しと呼ばれ、河川上流部の少ない沢水を巧みに利用して、山奥から木材を運搬するための技術だった。「中津川の鉄砲堰製作技術」として、国選択無形民俗文化財になっている。



木馬(キンマ、キウマ)

山から丸太を運搬するための木製のソリ。はしご状に丸太を組んだ木馬道を人力で牽引した。険しい崖や谷を通すときには栈橋やつり橋をつくり、木馬を通した。林道ができるまで、山からの運搬方法は木馬がよく使われた。



▲木馬



修羅(シュラ)

勾配の急な場所で、谷筋に沿って丸太を縦に並べて樋(とい)のようにし、その上を材木を滑らせて土場(どば・木材の一時集積場)まで下す設備。これを使って丸太を山から運ぶことを「修羅出し」といった。「木屋」と呼ばれる職人がトビで丸太を一本一本滑り落とし、最後はシュラとして使った丸太を上から崩して土場へおろした。

